2026 年度

研究分野	授業科目名	科目責任者
生化学系分野	消化器病態生化学特論Ⅰ・Ⅲ	塩谷 昭子

開講年次	共通／専攻／選択	単位数	
1,2,3,4	特論Ⅰ：必須専攻 特論Ⅲ：選択	特論Ⅰ：4（2/年） 特論Ⅲ：1/年	

目的

（1）消化管の生理機能と消化管癌の最先端の診断と治療を理解する。
（2）研究に不可欠な英文論文の内容を，比較的限られた時間で把握できる能力を確立する。
（3）英文論文に対する苦手意識を取り除き，必要に応じて容易に読解できるようになる。

授業到達目標

（1）消化器の生理機能としての病態を理解できる。
（2）消化器の癌および炎症性疾患の最先端の診断と治療について説明できる。
（3）研究結果を英文論文にまとめる。

授業計画

回数	月日	曜日	時間	担当者	区分 1	区分 2	授業内容
1	隔週	月	17:30-18:00	塩谷 昭子 仁科 惣治 松本 啓志 矢野 修也	講義	[抄読会]	英語論文抄読会 [場所:6 階カンファレンス 5]
2	3月 1 回	月	18:00-19:00	塩谷 昭子 仁科 惣治 吉田 浩司 松本 啓志 大澤 元保 河瀬 智哉 森田 周子	講義	講演会	外部あるいは学内の講師による研究関連の講演会 [場所:6 階カンファレンス 5]

評価方法

【特論Ⅰ】
（1） 1年間※で 30 時間出席し，科目責任者から履修手帳に出席印をもらい，提出する。
（2） 1年間※で，論文紹介または症例発表を２回行い，その要約２編を提出する。
【特論Ⅲ】
（1） 1年間※で 15 時間出席し，科目責任者から履修手帳に出席印をもらい，提出する。
（2） 1年間※で，論文紹介または症例発表を２回行い，その要約２編を提出する。
ただし，特論Ⅰ・Ⅱで紹介したものとは異なる論文（症例）であること。
特論ⅠとⅢの同年度での重複受講は不可とする。
※１～３年生は２月末まで，４年生は 11 月末までの講義を当該年度の単位認定の対象とする。

課題（レポート等）に対するフィードバック

抄読会で論文要約について指導を行う。

教科書

ISBN-9784315520620, 細胞の分子生物学（第 6 版）, 中村桂子・松原謙一（監訳）, 青山聖子, 他（翻訳）, ニュートンプレス, 2017

参考書

国内・欧米学会から発行されている月刊英文誌，消化器病学会誌，内視鏡学会誌，Gastroenterology, GUT, Gastrointestinal Endoscopy など

準備学習（予習・復習等）

紹介論文の要約を毎回の講義前に作成し，関連する重要な参考文献についても熟読をする。毎回の講義後も提示論文や参考文献の復習をすること。（30 分～60 分）

修了認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

課題を探求し，仮説立脚，検証に至るまでの科学的方法論・思考法を知悉する。

注意事項・メッセージ

PubMed で研究分野の最新の英文論文を検索し，抄読することにより最新の情報を得るように努める。